

第4学年「式と計算」における評価について

1 本校の指導体制

- (1) 少人数について… 3～6年生に少人数制
- (2) 4年生の少人数（編成）… 等質2クラス編成で実施している。
（メリット）… 個に関わる時間が増える いろいろな児童のアイデアが出る 児童が集中できる
（デメリット）… より深い学習ができない 指導環境のマンネリ化 児童の希望に応えられない

2 評価システムについて

- (1) 評価規準について
昨年度より研究に取り組んできた。点数化ということでジレンマがあったが、評定のための評価にならないよう全学年で取り組んだ。香算研の評価規準をもとに作成した。
- (2) 評価基準（判断基準）について
より具体的な判断基準になるよう配慮した。担任及び少人数担当とこまめに打ち合わせを行い、学年レベルで足並みをそろえて、児童の習熟に還元できるよう工夫した。
- (3) 評価シートについて
普通の授業での様子や、ワークシートなどの表現物を簡単に評価し、データ蓄積できるようにした児童の名前とともに、評価規準、判断基準が明記されている。またエクセルを活用し、点数合計も入力と同時に出力するよう作成している。

3 評価の実際（第4学年：単元「式と計算」による）

- (1) 少人数担当及び学年団の先生と打ち合わせ
評価対象時間、教具、児童への発問・助言の仕方、配慮を要する児童へのかかわり方などを共通理解
- (2) 授業中での評価
児童の発言、児童の操作など、その時間の児童の様子を補助簿に記入する。
- (3) 授業後の評価
ワークシートなどをチェックする。
- (4) 少人数担当及び学年団の先生と打ち合わせ
児童のワークシートを見ながら、判断基準の細かいラインを決定する。次時への共通理解をする。
- (5) データ入力
点数化（一評価6点満点）した結果を入力する。
- (6) 県版テストの実施
各テストを観点及び単元ごとに分けて、点数を入力する。
- (7) 調整（重み付け）
各観点の合計から、バランスを見る。また評定の重み付けをチェックする。

4 評価と指導の一体化

- (1) 自己振り返りファイルの活用
児童の振り返りから、つまづきをチェックし、個別指導する。児童と教師のコミュニケーション
- (2) 家庭学習の在り方
単元計画を見ながら、次時の単元の系統性を考えた宿題を出す。
- (3) 保護者との連携（情報提供）
学年便りを通して、教材の指導観や習熟できていない学習内容の紹介、学習定着などを行う。

5 今後の課題

(1) 個人内評価について

現在のシステムでは、児童が単元においてどのように伸びたのか、また何が原因でつまづいているのかが、評価にあらわれてこない。所見としてしか評価できないのが現状である。

(2) 時間内の評価について

この評価システムは、時間後の評価（児童のワークシートを見ながら）に偏っている。そのため、授業内の児童の気づきや、一般化するような発言などが評価しにくい。そこで、発表や操作などを記録できるよう、座席表などを活用し、点数化していきたい。

6 成果

教師の評定のための評価 < 児童の学習に還元するもの

保護者への説明責任 < 指導と評価の一体化

教師自身が授業に責任をもち、実践を反省することができる。次時へ生かすことができる。

児童への指導ポイントが明確になる（学年間の教師の足並みがそろおう）

単元終了後に学習状況が把握でき、児童への助言の目安ができる（ここをこうがんばればできるよ）

学年団での打ち合わせが確保でき、いろいろ相談することができる。

テスト重視に歯止め

第4学年 「式と計算」 評価のあり方について

(1) 提案の概要

本校の評価システムについて、その変遷経緯と実際の評価方法について提案していきたい。各クラスバラバラであった評価について学校でそろえていこうということを目指し「忙しい学校現場でどうすることがベストか」を追求してきた。

昨年度は、観点別評価表を作成し取り組んだ。実践の中から次のような問題点が明らかになった。

- ・ 基準が明確でない。(教師の主観が入る)
- ・ 毎時間の評価がしにくい。

そこで、今回提案する評価システムの開発に至った。

評価規準について

A	B	C	D	E	F	G	H	
1	4年算数科(2学期) 評価プラン	単元「式と計算」	時間					
2	時	小単元	学習内容	評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解
3	1	式と式の計算のしくみ	式と計算の学習課題をとりかえる。 ・()の中をまぎりに計算することを理解する。	ノート・ワークシート				()の中をまぎりに計算することを理解することができる。
4	2		・加減算が適用している式の乗除先行のまぎりを理解する。 ・問題文の内容をよみとり、式に表す。	ノート・ワークシート			問題文を読んで、()や計算順序のまぎりを使って式に表すことができる。	
5	3		・加減算が適用している式の計算の仕方をもとめ、練習する。	ノート・ワークシート				・加減算が適用している式の計算方法をまじめに、計算することができる。
6	4	2 式の表し方とよみか	・結句を見て、人数や個数の求め方を式に表したり、逆に式から求め方を説明したりする。	ノート・ワークシート				
7	5		・式を見て、式が何を表しているかを説明する。 ・式から問題文をつくる。	ノート・ワークシート				
8	6	算数のまじり	・計算あそびを通して、計算の順序や()の使い方の理解を深める。	ノート・ワークシート				
9	7	演習(2時間)	・演習問題を解く。	ノート・ワークシート				

昨年度より研究に取り組んできた。点数化ということでジレンマがあったが、評価のための評価にならないよう全学年で取り組んだ。作成に際しては香算研の評価規準をもとにした。
また、使えるものを作ろうということで、以下のことに留意した。

- ・ 1時間1観点
- ・ 毎時間すべての評価規準を作る

(注) すべての時間の評価をするためではない。来年も継続できるためである。実際は全時間の何時間かの評価をしている。

評価基準(判断基準)について

より具体的な判断基準になるよう配慮した。担任及び少人数担当とこまめに打ち合わせを行い、学年レベルで足並みをそろえて、児童の習熟に還元できるように工夫した。

空欄があるが、全てを埋めるというものではない。配点は、6点を基準にしている。

単元名	式と計算	学習内容	評価規準	評価方法	評価基準	観点別評価	配点
1	式と式の計算のしくみ	式と計算の学習課題をとりかえる。 ・()の中をまぎりに計算することを理解する。	関心・意欲・態度 思考・判断 表現・処理 知識・理解	ノート・ワークシート	・()の中をまぎりに計算することを理解することができる。	関心・意欲・態度 思考・判断 表現・処理 知識・理解	6
2		・加減算が適用している式の乗除先行のまぎりを理解する。 ・問題文の内容をよみとり、式に表す。		ノート・ワークシート	・問題文を読んで、()や計算順序のまぎりを使って式に表すことができる。		6
3		・加減算が適用している式の計算の仕方をもとめ、練習する。		ノート・ワークシート	・加減算が適用している式の計算方法をまじめに、計算することができる。		6
4	2 式の表し方とよみか	・結句を見て、人数や個数の求め方を式に表したり、逆に式から求め方を説明したりする。		ノート・ワークシート			6
5		・式を見て、式が何を表しているかを説明する。 ・式から問題文をつくる。		ノート・ワークシート			6
6	算数のまじり	・計算あそびを通して、計算の順序や()の使い方の理解を深める。		ノート・ワークシート			6
7	演習(2時間)	・演習問題を解く。		ノート・ワークシート			6

評価シートについて

A		B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA
1		単元7		式と計算																							
2				授業評価																							
3		配点		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0										
4		No		6	0	0	4	5	0	2	7~8	0	1	3	0												
5		具体的評価基準		A		B		C								章末テスト評価 県版テスト評価 観点別合計											
6																											
7																											
8		氏名		関心	関心	関心	思考	思考	思考	表現	表現	表現	知識	知識	知識	関心	思考	表現	知識	関心	思考	表現	知識	関心	思考	表現	知識
9		1 A児																									
10		2 B児																									
11		3																									

普通の授業での様子や、ワークシートなどの表現物を簡単に評価し、データを蓄積できるようにした。

児童の名前とともに、評価規準、判断基準が明記されている。またエクセルを活用し、点数合計も入力と同時に出来るよう作成している。教科書の巻末のテストと県版テストも入れている。

判定シート

A		B	D				E	F	G	H				I	J	K	L				M	N	O	P	Q
1 番号	2 氏名	3 得点合計				4 配点合計	5 達成度				6 判定				7 観 点 合 計 有	8 評 定 判 定									
		関心	思考	表現	知識		関心	思考	表現	知識	関心	思考	表現	知識											
3						0	0	0	0																
4	1 A児	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####
5	2 B児	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####
6	3	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####
7	4	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####

評価と指導の一体化として、「算数振り返りカード」を活用している。児童のふり返りから、つまづきをチェックし、個別指導する。児童と教師のコミュニケーションの場となっている。

家庭学習は、単元計画を見ながら、次時の単元の系統性を考えた宿題を算数プリントとして出している。

保護者との連携（情報提供）として、学年便りを通して、教材の指導観や習熟できていない学習内容を紹介したり、練習問題を掲載し学習内容の定着を図ったりしている。

【このシステムを使っでの成果】

評価と指導の一体化ができる。教師自身が授業に責任をもち、実践を反省することができる。次時へ生かすことができる。発問と評価の統一性ができる。教師間（担任と少人数担当）の打ち合わせの必要性がでてくる。

児童への指導ポイントが明確になる。（学年間の教師の足並みがそろそろ）児童に対する励まし、分かるための具体的な手立てができる。

単元終了後に学習状況が把握できる。児童への助言の目安ができる（ここをこうがんばればできるよ）

学年団での打ち合わせが確保できる。いろいろ相談することができ、学年団での格差を無くすることができる。

テスト重視の歯止めにもなる。

【今後の課題】

現在のシステムでは、児童が単元においてどのように伸びたのか、また何が原因でつまづいているのか、評価にあ

らわれてこない。この評価システムは、時間後の評価（児童のワークシートを見ながら）に偏っている。そのため、授業内の児童の気づきや、一般化するような発言などが評価しにくい。また、評価結果をその都度フィードバックできるようにするためには、どうしていくことがよいか。

(2) 討議の概要

Q．関心・意欲・態度の観点を見取った具体例を紹介してほしい。

A．三角形のところなら、3辺の長さを意識しながら、多くの種類を作ると関心意欲が高いと判断した。

発表を評価にどう入れていくかが課題。現時点では点数化には入っていない。

意見...重み付けをするかどうかの問題。4つの観点は等しくしなければならないのではないかと。

意見...得点化すると、事務的効率化の一方で、個人の変容が埋没する。1時間内、単元内での変容をつかむことができない。得点化だけで終わるのではなくて、質的なもの（児童と教師のコミュニケーションの内容、コメント等文章の記録）も合わせて、両方使うとよい。

Q．客観的なものを出していく。数値を出すことだけが客観的なものなのか。ワークシートに表れない発見やつぶやきをどう扱うか。主観かも知れないが、それを得点化しようとは考えていない。ワークシートだけで日々の評価が終わっていないか。

A．ワークシートを使うと目に見える事後の評価が中心になる。授業内のつぶやき等は、例えば、面積の求め方では、より効率よく求めようとした子、統合しようとする子にチェックを入れておいて、+ していこうと打ち合わせしている。

意見...個人ののびをどう取り上げていくか。座席表を活用し、つぶやきや考えをメモしておいて、算数振り返りカードのなかに教師がみとったのびを書き加えて返している。1時間の中での全員の見取りは難しいので、対象を決めて行っている。

統計的な処理として最終の評定をするのはよい。とらえにくいものを何とかとらえようとしている。授業改善にどのように生かせるかが大切。思考力が弱い子どもにどうすることが思考力を育てることになるのか。あなたは、このことをするとAランクになりますよBランクになりますよ。どうすることが必要なのか、その手立てができていたらよい。

(3) ご指導の概要

短時間で評価するにはよい方法である。授業をやりっ放しでなく、数値で残すことが大切。打ち合わせの時間が取れるようになることはよい。毎時間自作のプリントをし、月末テストを作り工夫している。そのことが手立てになり、説明材料にもなっている。